

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B1204-2		事務事業名		児童館管理運営委託事業		事業期間		平成2年度		～		令和8年度以降				
実施計画事業																		
実施計画事業以外の事業		○		担当部		こども未来部		担当課・担当係		多世代交流プラザ・事業推進係								
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編	基本 施策	12	展開 方向	4	事業・予算区分	一般事業	款	3	項	3	目	5	大	3	中	1
	根拠法令 ・個別計画								対象 (何・誰を対象に)						指定管理者			
	目的 (何のために)				地域における遊び及び生活の援助と子育て支援を行い、子どもの心身を育成し情操を豊かにする。				内容 (どのような方法で)						児童厚生員や子育て支援員が、子どもと関わりを持ちながら、子ども達の居場所づくりを行い、また、保護者には、子育てに寄り添う機会とする。 毎月1回、館長会を開催し、利用状況の報告の他、各館が抱える課題等の解決に向けた意見交換などを実施。			

(2)事業費

事業費	項目	単位等	R2	R3	R4	R5	R6
			直接経費	決算額	千円	233,322	231,136
	財源						
	一般財源		233,322	231,136	248,720	248,615	
	国・県支出金		0	0	0	0	
	その他		44	5	45	107	
	計(A)		233,366	231,141	248,765	248,722	
	対前年比	%	—	99.05%	107.62%	99.98%	
	予算額	千円	240,350	240,316	248,765	252,400	256,854
人件費	正規職員	人	0.7	0.7	0.7	0.7	
	正規職員(平均賃金)	千円	5,240	5,240	5,240	5,240	
	その他職員	人					
	その他職員(時給×時間)	千円					
	計(B)	千円	5,240	5,240	5,240	5,240	
	事業費合計(C=A+B)	千円	238,606	236,381	254,005	253,962	

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	12	指標名	単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1	児童館利用者数	人	↗	#####	627,754		
展開方向	4	2	中高生利用者数	人	↗	37,055	50,637			
		3								

指標	指標ほか		単位	R2	R3	R4	R5	R6	
	成果指標	利用者数	人	目標					
				実績	200,948	382,935	543,459	620,123	
	活動指標	開館日数	日	目標					
				実績	278	280	311	312	
				目標					
				実績					
	単 位 事 業 あ た り	受益者数(a)		人	200,948	382,935	543,459	620,123	
		受益者あたり事業費(=C/a)		円	1,187	617	467	409	

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維持(改善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの				
	事業の達成状況と課題	令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類となったことを受け、一定の感染対策は継続しつつも、大きな制限もなく順調に事業を実施することができたことにより、児童館利用者数及び中高生利用者数、ともに増となっている。ただし、中高生利用者数については、相対的に利用が少ない状況であり利用促進を図る必要がある。	今後の実施内容・今後の改善内容	市内の各児童館において、中高生利用促進に向けた取り組み(中高生利用タイムの実施等、中高生が利用しやすい環境づくり)を促進する。			
	改善の有無	有		千円	節	細節	細々節
これまでの改善内容	多くの児童に利用いただけるよう、SNSや地域の学校に館だよりを配布するなど行った。また、ジュニア奉仕団、地域連絡協議会との連携による、児童館のPRなどにも取り組んでいる。	事務事業評価額					

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

		評価項目	評価結果	評価結果を判断した理由
事業分析	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	児童館は、18歳未満のすべての子どもを対象とし、地域における遊び及び生活の援助と子育て支援を行い、子どもの心身を育成し情操を豊かにすることを目的としている。 こどもの居場所づくりは、こどもの健全育成において大変重要な役割を担うものであり、公費を投入する必要がある。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	一部の住民に影響がある	児童館は児童にとって、学校や家庭以外での大切な居場所となっており、大きな影響がある。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい	各児童館において実施する工作などの資材を、リサイクルで賄うなど、経費節減の意識をもって運営している。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい	各地域に整備された児童館(7館)については、既に指定管理者により、管理・運営を行っている。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である	こどもの健全育成において大変重要な役割を担うものであり、多くの児童の安心・安全な居場所として管理・運営を行っており、適正である。